

科目番号	科目名		英語名		
HE31001	病理組織学		Histopathology		
標準履修年次	単位数	開設学期	曜日	時限	使用教室
2年	2単位	春学期A B	木曜日	5・6時限	4 B 1 1 6
担当教員（研究室・連絡先・オフィスアワー）					
長田道夫（4B 410, 3171, 随時、訪問前にメールで確認してください）					
加藤光保（学系棟 731, 3944, 随時、訪問前にメールで確認してください）					
学習目標					
<p>医療科学が目指すところは、疾患の早期発見や正確な診断への医療技術者としての技術支援、また病因究明を目指す科学者の育成である。この目標に対して病理組織学では、まずヒトの体に起こる様々な病気の種類や分類、その発生機序、臓器や病変の所見と意味について病理学総論から考える。次に総論を基盤として様々な症状や病気の進行過程など、常に個体としての病気をイメージできるように学習する。さらに、具体的な検査の手法、およびその結果に基づいた治療法、病気の予防法などについても学ぶ。</p> <p>“病気の本質とは何か”について考え、これから学ぶ多くの医科学専門科目の重要な基盤をつくる。</p> <p>本科目を受講すると以下のことができるようになる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病理学が医学/医療にどのような意味を持つのか説明できる。 2. 病理学はどのように発展してきたのか述べることができる。 3. 病気を臓器障害、細胞障害という視点から理解し、病期の発症機序について系統立てて述べることができる。 4. 循環、炎症、修復、腫瘍などの代表的な病理学総論を理解し、臓器の機能障害と関連付けられる。 5. 主要臓器の代表的疾患名をあげ、それぞれの病変と病態との関連について説明できる。 					
授業内容（概要、回数、担当教員等）					
<p>総論：病気とは何か、病気の本態について学び、病理学が病気の理解にどのように役立っているのかについて、歴史的変遷と先端医療とを対比しながら医学における病理学の位置づけを概説する。病理学総論を学ぶことで、いろいろな臓器に発生する多様な病気の根底に流れる共通の発症・進展機序を理解できるようにする。</p> <p>各論：臓器別に頻度の高い病気、あるいは臨床的に重要な病気（進行性の腫瘍など）について、その臨床情報を踏まえ、病変の分類や特徴などについて実際の病変の画像などを用いて、病気の名前と病変が同時にイメージできるように学ぶ。さらに、それらの病気をどのように診断するのかについて具体的な例を提示し、病理組織学が医療現場においてどのような役割があるのかについても触れる。</p>					
使用言語（ <input checked="" type="checkbox"/> してください）： <input checked="" type="checkbox"/> 日本語・ <input type="checkbox"/> 英語・ <input type="checkbox"/> バイリンガル					
1	4月12日	病理総論	組織障害	長田	
2	4月19日	炎症	組織修復・再生	長田	
3	4月26日	循環障害	環境・毒性	長田	
4	5月10日	免疫アレルギー	感染症	長田	
5	5月17日	腫瘍総論	腫瘍総論	加藤	
6	5月24日	循環器	代謝内分泌	長田	
7	5月31日	消化器	造血器	長田	
8	6月7日	生殖器	脳神経・感覚器	長田	
9	6月14日	先天異常・遺伝子病	老化・老年病	長田	
10	6月21日	呼吸器	腎泌尿器	長田	
単位取得要件	8割以上の出席と試験において合格点に達すること。				
使用教科書・教材	Robbins Basic Pathology (Saunders, 9 th edition) カラーで学べる病理学（ヌーベルヒロカワ、第3版） 標準病理学（医学書院、第5版）				
成績評価	学期末の筆記試験などにより成績を判定する。				
備考：病気とは何であるのか？に関心を持ち、病態をその機序を考えながら正しく理解するように勉めること。授業は日本語で行いますが、医学英語に親しむために資料は英語にします。病理学は範囲が広く、また新しいことを英語の教科書で理解するのは難しいこともあり、比較的読みやすい日本語の教科書も併用すると効果的です。講義の資料はManabaにアップしますので、講義に持参してください。試験は論述式です。					